

● 〈動詞の連用形〉 + 〈動詞〉 の場合、原則としてあとの〈動詞〉は開く。

- 振りかえる ×振り返る
- 考えこむ ×考え込む

\*可読性を考慮して、以下は例外とする（下記は一例。別紙参照）。

- 立ち尽くす
- 飛び散る
- 取り乱す
- 取り繕う
- 取り憑く

\* 〈～だす〉の言葉は、

物理的・抽象的に「外へ出す」の意の場合〈～出す〉、  
「～をし始める」の意の場合は〈～だす〉。

- 踏み出す（足を前に出す）
- 歩きだす（歩き始める）

● 「テンシ」は、この作品のオリジナルキャラクターである化け物を指す場合はカタカナ。  
一般的な「天使」（angelの意）の場合は漢字。

\*キャラクターが真相を知るまでは、相手が「テンシ」と言っている場合でも「天使」と表記。

● 作品中の専門用語に、山形カッコ〈 〉をつける（下記は一例。別紙参照）。

- 〈テンシ〉
- 〈えいりあす〉
- 〈でもんず〉
- 〈ゆーとびあ〉

● 作品中、特別な使い方をしている道具に、山形カッコ〈 〉をつける（下記は一例。別紙参照）。

〈電話〉 スマートフォン、ケータイの機器を指す場合。  
「電話をかける」のような行為を表す場合は、カッコをつけない。

〈人形〉 テンシの髪の毛を封じたもの。封じる前のものはカッコをつけない。

〈カメラ〉 スマートフォン、ケータイについているカメラ機能。

〈塩〉 バケモノ退治に使う道具。

●実在の建物や駅の名前に山形カッコ〈 〉をつける。地名（街の名前、川、山など）にはつけない。

また、以下は例外的に〈 〉をつける。

〈郡上おどり〉  
〈徹夜おどり〉  
〈おどり教室〉  
〈郡上おどりの像〉

●ルビは、セクションの初出につける（すべてにはつけない）。

\*セクションは数字で表された区切り。

●以下は文脈によって使い分けることとし、あえて統一しない。

○他人 「ひと」と読ませる（ルビあり）の場合と、  
「たにん」と読ませる（ルビなし）場合もあり。

○お姉さん 実の姉の場合「お姉さん」、年上の女性もしくは若い女性の場合「おねえさん」

○体 特別な意味を持たせる場合「カラダ」。

●『ハルカ』では、口癖のように、「～だから」という言い回しを多用する。

●『マヨ』の第三部からは、文体を固くする。

○「～だけど」→「～だが」、など

## 人稱一覧

呼ばれる人	マヨ	ハルカ	マヒル	ナツミ	サキ	ヤヨイ
呼ぶ人						
マヨ	私	ハルカ	マヒル	ナツミ	サキちゃん サキ	ヤヨイ
ハルカ	マヨ先生 先生	わたし	マヒルさん マヒルセンパイ センパイ	ナツミさん	サキ	ヤヨイさん ヤヨイ先輩 先輩
マヒル	センセイ	ハルカ	あたし	ナツミおねえちゃん おねえちゃん	サキ	ヤヨイ
ナツミ	マヨ	ハルカさん ハルカ	マヒル	わたし	サキさん	ヤヨイさん
サキ	マヨさん マヨ先生 先生	センパイ ハルカさん	マヒルさん マヒル先輩 先輩	ナツミさん	わたくし ボク	ヤヨイさん ヤヨイ先輩 先輩
ヤヨイ	マヨ先生 先生	ハルカ	マヒル あいつ	ナツミさん	サキ	ウチ